

星空ニュース

10月の星空

上旬:21時頃 中旬:20時頃 下旬:19時頃

天文現象

- 10/6 新月
- 10/10 月と金星が並ぶ(夕方、南西の空)
- 10/13 上弦
- 10/14 月と土星が並ぶ
- 10/15 月と木星が並ぶ
のち
- 10/18 後の月(十三夜)
- 10/20 満月
- 10/25 水星が西方最大離角
…地球から見て水星が太陽の最も西側にあるとき。西方最大離角の前後数日間は、明け方、東の低い空で水星が見つけやすくなります。
- 10/29 下弦



★星座盤の使い方



星座盤は空にかざして方位を合わせてみて!
空と重ねると…東西の向きが直くなるよ。

ワンポイント星座



アンドロメダ座

古代エチオピア王家の物語に登場するお姫様の星座です。アンドロメダ座の方向には、私たちの暮らす天の川銀河のおとなりの銀河である、アンドロメダ銀河があります。空の暗い場所であれば肉眼でもかすかに見ることができ、双眼鏡を使えばぼんやりと広がっている様子がわかります。



ペガロク ©dwarf / 多摩六都科学館

今月のポイント

東京では21日～31日頃
水星観察のチャンス!

10月25日、水星が西方最大離角となり、この前後数日間は明け方、東の低い空で見つけやすくなります。水星は太陽に最も近い内惑星であるため、太陽から最も離れた「最大離角」の頃、日の出前か日の入後のわずかな時間に観察することができます。この時期、日の出30分前（午前5時30分頃）には水星の高度は10度を超え、今年のうちでは最も高くなります。水星はマイナス0.5等と明るめですが、空が明るくなり始めていて見つけにくいため、方角や高さをめやすに双眼鏡を使うと、より見つけやすくおすすめです。



<注意!>

水星を追いかけるように太陽が昇ってきます。双眼鏡でも肉眼でも、決して太陽を見てはいけません。日の出前に観察を終えるようにしましょう。

参考:

国立天文台ウェブサイト
ステラナビゲータ11(©株式会社アストロアーツ)



もうひとつの名月 後の月(十三夜)

今年の「中秋の名月」は9月21日でしたが、今月は「後の月(十三夜)」と呼ばれるもうひとつの名月があります。後の月は太陰太陽暦(旧暦)の9月13日の月を眺める風習で、今年は10月18日がその日にあたります。この風習は日本独自のもので、収穫期の栗をお供えすることから栗名月とも呼ばれます。後の月は満月の前の少し欠けた形となりますますが、完全でないその様子がかえって趣が感じられるとされています。味わい深い「後の月」のお月見をお楽しみください。